

才能は回路の良し悪し

時実：才能というのは、コンピューターそのものよりも、その回路の良し悪しに関係しています。だから、生まれてから、良い回路を作ってやるようにすれば、才能が育つのです。イタリア人が音楽的才能に恵まれているというのも、母親の声が音楽的だからです。日本の母親はよくドラ声を張り上げて子供を叱りつけているでしょ。(笑) けれども、イタリアの母親は、子供を叱る声にまで、リズムがあって音楽的です。だから、生まれた時から、こういう環境に育てば、音楽的によい回路ができるのが当然だ、と言えましょう。

柳平：赤ん坊の頃の環境が、どんなに大切なものか、ということがよくわかりました。

時実：ところで、最近の子供は、団地という小さなマスの中に閉じ込められて育てられていますから、どうも創造性に欠けているよう

ですね。音は、障子やふすまを破りながら大きくなりましたが、最近の団地暮らしでは、そういうことは出来ないでしょう。親の言うままになる……親の指図がないと行動できない……ということは、モチベーションのない子供が多い、ということでしょうね。今の子供たちは、どうも、自分から「何かしたい」ということが少ないように思われます。

柳平：ということは、良い回路が作られにくい。良いソフトウェアができない、ということになりますね。